

学力向上に向けた取組

1 課題

- 基礎的・基本的な知識、技能の確かな定着
- 思考力・判断力・表現力の育成と言語活動の充実
- 家庭学習の習慣化

2 課題解決の具体策

- ① 朝の時間を活用し、ドリル学習を計画的に取り組ませる。
- ② 補習指導を計画的に行い、基礎的・基本的な知識技能の定着を図る。
- ③ 知識を活用する力をはぐくむ授業の展開
- ④ 「家庭学習の仕方」を配布し、自主的な学習に取り組むことができるよう指導の充実を図る。

3 取組の概要

① 計画的なドリル学習・ミニテストの積極的な実施

毎週火曜日の朝自習の時間及び授業開始5分間程度を全学年で取り組み、基本的な知識の定着を目指す。今年度は算数のみにこだわらず、漢字学習なども実施している

② 補習指導の実施

毎週水曜日の放課後20分程度と木曜日の委員会活動のない時間に実施し、教科にこだわらず、補充的な指導を行う。

③ 知識を活用する力をはぐくむ授業の展開

昨年度までの研究実践を継続するとともに、今年度の研究並びに日常実践の中で、知識を活用する力をはぐくむ授業の展開を意識した指導を行っている。また、授業評価を取り入れ、教師自身の指導の振り返りを意識して実施している。



④ 家庭学習の習慣化

子どもたちが、「自分で学習内容を決め、自分なりのやり方やペースに応じて取り組む。」姿を目指し、学習時間＝(学年×10分)という共通の達成目標を設定した。保護者には学校の考え方や家庭学習の方法を懇談会・家庭訪問等で明確に示し、理解と協力を得ている。また、学習のめあてや学習の仕方、学習内容等について中間交流会を実施した。

4 成果と課題

- 重点指導事項を明確にし、具体的な実施方法を共通理解することにより、指導の焦点化がなされ、教師の授業実践に対する意欲や児童の学習に対する満足度も高まってきている。
- 補習指導や長期休業中の補充学習を行うことで、学習に遅れがちな子どもたちの意欲も徐々に向上してきている。
- 授業評価の形式や活用方法を校内で統一するなど、改善のための指針とするために検討が必要である。